



発行所
高崎高校同窓会
高崎市八千代町2-4-1
TEL 0273-24-0074

編集兼発行人
志村 甲子郎
印刷所
高崎市電見町6-1
熊谷印刷所

会長就任に当って



原 一 雄

私は本年二月の同窓会総会に於て皆様の御推挙により小山長四郎前会長の後を受け、光輝あるわが高崎高等学校同窓会の会長に就任致しました。もとより微力でありまして八十余年の伝統と栄光に輝く高々同窓会をお引受するにふさわしいものではありませんが、幸に副会長に三十二期の柴山大五郎氏、四十二期の小山樞一氏の清新な二氏の新任を、また理事役員の皆様の御協力によりまして、御引受致しました上は、全力を尽しまして、高々のより盛んなる興隆と同窓会活動の愈々の活性化と基盤の確立を計りたいと存じます。高々は今や八十周年記念の事業を

昨年に終え、観音山下の恵まれた地域に鉄筋校舎の新築が完成し、校庭運動場の完備と共に、県下は勿論北関東にあっても有数の名実共に備えた名門校としての偉容を整えたと言えると思います。この事は歴代の学校当局、なかんずく中野現校長以下の皆さんのお骨折と、更に父兄の協力、同窓会一致の尽力の長い結果であることは申すまでもありません。この学校を母校とし、更に将来に亘ってここに学び得るものの幸は言うまでもない事ながら、施設の整備を誇ると共に、更に大切な事は知徳体にあたる人間の完成にあります。三年の高校教育にその全てを望み得

総会並びに新年会

昭和五十五年一月二十六日(土) 午後二時半より

高崎地域医療センター

(高崎市高松町、高崎市役所西)

新年会費 二、〇〇〇円

ご近所にお住いの同窓の皆様にお声をかけ多数ご参加くだされ旧交・懐旧の意義ある一日といたしたいと存じますので是非ご出席くださるようお願いいたします。

ないとしても、人間十代の大切な三年の期間に築いた骨格が、精神に於て体力に於て、生涯を貫く最も重要な基礎作りを為す事は、お互いに痛感するところであります。

高々は中央に於て日本の政財学

や芸術文化スポーツのあらゆる方面に国家の指導的地位にある先輩を有しておりますが、地方にあつても各層各方面に於て地域の光りとしての指導的地位にたたれる人が数多くあります。そうしてその全ての人の心を貫くものは、剛健闊達純粋で卑劣不正を激しく排し、苦難にあえば更に反激奮闘する不屈の闘魂と、山紫水明の上州に養われた清く温い友情に結ばれた高々精神を仰ぎみることに出来ます。

人生に於ては、知識学術はもとより必要ではありませんが、更に大切なものは激しい闘いの中に繰り返される人間としての勇氣決断情愛等すべ

ての心の輝きにあります。わが高々が生む之からの俊秀は、輝く伝統を受けて益々人間としての個の心と体を厳しく鍛え、如何なる場所にあつてもその一隅を照らす気魄を貫くことを信じます。

わが同窓会報は現在住所のわかつている会員に対してだけでも一万二千を越える発送を致しておりますが益々このサークル活動を広げ更に親睦と友情の高まりを尽して参りたいと考えております。皆様の心からの御協力をお願い申し上げます。

終りに甚だ悲しむべき事をお知らせ致さねばなりません、永年京浜高々同窓会を代表して本校同窓会の副会長として活躍された三十一期の入澤武右門氏が十月に亡くなられましたことは残念の限りに存じます。心から哀悼申し上げます。

以上を申しあげまして私の就任御挨拶に代えさせていただきます。

京浜高崎高校野球部後援会長、入沢武右門先生が御看病の甲斐もなく不帰の客となられ、われわれ会員一同、先が暗くなったような、どうにもならない空虚を覚え、哀切とも痛惜ともい、ようのない気持ちでいっぱいです。

先生の御健在のうちに、ぜひ甲子園出場の悲願を果たし、先生には今後とも後援会の隆盛につとめていただこうと願っておりましたのに、惜別の情に堪えません。

思えば、今春の野球部OB会の総会で、「しんせい」をふかし、お酒をうまそうに召し上りながら、最近、目がはれぼったく、からだの調子がどうもおかしいんだ。

入沢先生をしのんで

五十七期

飯島 勇

今日が最後になるかもしれない」と冗談めいたことを言いながら、野球部OB諸兄と談笑していたのが、先生の最後の元氣な姿となり、今でもあの時のにこやかなお顔がありありと思ひ出されます。

こゝに、後援会員一同、謹んで哀悼の意を表わし、あわせて御冥福をお祈りいたします。

母校高崎高校野球部は、台風一過の秋晴れに恵まれた去る十月二十日、二十一日、京浜高崎高校野球部後援会の招待により、日大鶴ヶ丘高校、日大桜ヶ丘高校と変則ダブルヘッダーの対外試合を行いました。洗練された都会のAクラスのチームと対戦し選手諸君も大いに得るものがあつたと思います。

先生は選手諸君と語り合うのを楽しみにしていただけたに、お姿が見えなかったのがとても淋しく思いました。

この京浜高崎高校野球部後援会こそ、先生の母校野球部に対する情熱から設立され物心両面から援助し続け、今日に至っていることは言うまでもありません。

先生の御人格は高潔で、万人等しく敬慕し、この会長の下ならという感奮から、野球部OB以外の方も多く後援会に入会してくださっております。

先生は、大正末期から昭和初めにかけての、高中野球部第二期黄金時代の名外野手でありました。先生は自分達の果し得なかつた甲子園への夢を後輩達に託し、高崎高校が甲子園に出場するまでは絶対に死なないう。甲子園の空に「すいらん」をこたまさせるんだ!!選手諸君よ、試合に負けて泣いてはだめだ!!泣きたかつたら練習で泣け!!

もつと泣きたかつたら、甲子園へ行つて、校歌を歌いながら泣け!!と口ぐせのように言っておられました。

先生は、御多忙の御身でありながら、選手たちをよく激励してくださいました。試合の時には、応援席の最前列に陣取り、生徒と肩を組んで、応援歌「すいらん」を歌い、応援席にも声が小さいとハッパをかけることがよくありました。真夏の城南球場で、あの興奮の熱気につつまれながら、声を振り絞って声援しておられた、あの先生のお姿がきのうのように思ひ出されます。先生は、本校が進学校の宿命から、部員不足によって部の存続すら危ぶまれた時、

練習も思うようにならないだろうと、バツティングマシンを贈ったり、あるいは、選手達に對し、甲子園への執着心を強めてもらおうと、部員全員を甲子園まで連れて行き、熱戦くり返すナマの甲子園大会の雰囲気を見学させたり、あるいは、コーチを招へいして、基本技術の向上につとめるなど母校野球部の強化に、常に側面から協力してくださりました。

選手諸君も声援にこたえ、こゝ数年、好成績を残してくれました。四十八年、春季関東大会、群馬県大会優勝。関東大会に

県代表として出場。二回戦で江川を擁する作新学院に敗る。四十九年 全国高校野球選手権大会、北関東大会出場。甲子園出場決定戦で前橋工に敗る。秋季関東大会に群馬県代表として出場。東海大相模に敗る。等々。

私たちは、先生があれほどに情熱を燃やした甲子園の夢実現のために、これからも後援活動を続ける覚悟でございします。先生のかかげた火は、多くの人に受けつがれ、決して消えることはないでしょう。

どうか、安らかに御冥目ください。なお、高崎高校野球部OB会、後援会では、故人のありし日を忍び、功績を称えるため、来春、入沢武右門先生の追悼試合を計画しております。

同窓会本部新役員

会長	原 一雄	29期
副会長	柴山大五郎	32期
	小山 裕一	42期
	滝上豊太郎	教頭
	(入沢武右門)	空席

お詫び

この欄に予定しておりました前会長・小山長四郎氏の挨拶は、都合で掲載できませんでした。ここで皆様にお詫びするとともに氏の長年の御苦勞に對し感謝申し上げたいと存じます。

新校旗

母校に贈られる

今度母校に新しい校旗が誕生した。九月一日、第二学期始業式に先立ち本校五十回卒業生一同(代表横田英一、国峰善次郎、石井敬之助、喜美候部正志各氏)から新装なった校旗が本校に贈呈された。

本校六十周年記念に作成された校旗は、年月を経えており、折も折、五十回卒業生の有志から「自分達は卒業を直前にして、校舎を大火で焼失させてしまった。火明り、中で友とスクラムを組んで、汗と涙で翠幟を合唱、母校の再起を誓ったあの夜のこと」は終生忘れ得ぬことだ。なにかの恩返しを、の事が、やがて同期生全員の声となつて、五十数万円の浄財が集められ、新校旗贈呈のはこびとなつたものである。

新校旗は、ハルリアンブルーの地に、高々をかたどつた校章の金刺繍を厚くもり上げた重厚な仕上りである。デザインは木村仁先生(五十五回)、校名は書家、山本津水先生、製作は相川悦孝氏(五十三回)のお世話で京都西陣によるものである。



「高中発祥の地」碑建立について

学校長 中野敏宗

このたび市内赤坂町長松寺の境内に本校創立記念碑が建てられました。本校は明治三十年四月、群馬県尋常中学校群馬分校としてこの長松寺本堂において発足しました。当時新入生は七十六名で二学級に編成され本堂西の間を一組、東の間を二組が使用しました。生徒は極めて元気がよく悪戯も多かったようですが、山端住職が寛大で、よく面倒をみてくれたとのことでした。

現住職山端敬吾氏は本校第二十三回卒業でありましたが、昨年の母校創立八十周年を記念して建てられたものであります。碑の石は濃緑色の美しく磨かれた大理石が用いられ、表面には福田前総理の揮毫により、

群馬県立高崎高等学校

発祥の地

内閣総理大臣 福田純夫

と力強い字が彫られています。裏側には私が書きました本校創立の由来が彫りこまれました。

この碑の除幕式は八月七日、福田前総理のご来会を得て挙行されました。本校同窓会から原会長、柴山、小山副会長、市川常任理事、さらに山本参議院議員、橋爪県議PTAから藤田会長、竹中副会長等が参会され、住職のお孫さんの手によって幕は開かれました。

式後、寺の庫裡において祝宴がもたれ、和やかな歓談の中に創立当時を偲びました。福田先輩も多忙なスケジュールを割かれて中学時代の思い出を語るなど寛ろぎの一時をもちました。

すでに創立八十周年を記念する多くの事業が同窓生のご尽力により実現しましたが、さらにこの記念碑が生まれましたことは学校としてもまことに喜ばしいことであり、山



井上・真木賞

選考基準決定

昨年、母校八十周年記念式典に際し、井上房一郎（十五期）真木武次（十五期）両氏には功労賞としての記念杯が贈られた。その後両氏は母校に寄贈され、五十三年度から在校生に与えられることになっていったが、その選考基準が次のように決定され第一回授賞式も実施された。

○井上賞 対外試合・発表会などの活動に

おいて全国大会出場およびその前後の戦績で、特に優秀な成績をおさめた個人または団体に授与する。

○真木賞 校外・校内の活動において、顕著な成績をおさめた個人または団体に授与する。

二十八回生 図書購入費寄贈

卒業五十年を記念して

十月二十三日、二十八回生代表峰 昭示、林 博治、櫻井善朗の三氏が学校を訪れ、母校の図書代金の一助にと、一金四十三万円を校長に手渡した。

話によると、二十八回生は昭和四年に卒業し、本年が卒業後ちょうど五十年目にあたるといふ。そこで、その年を記念し、九月二十一日には、市内護国寺において、物故された恩師と級友の慰霊を行なった。その際幹事から母校後輩達の勉強の手助けになればと図書購入費を贈る案が出され、衆議一決し、学校長に手渡された次第である。学校ではその使途について、先輩達の意向に副えるよう、目下図書係を中心に検討中である。

中野校長

文部大臣表彰さる

十一月二十六日、平河町の都道府県会館において、中野敏宗校長は文部大臣表彰を受けられた。

この表彰は全国の国・公立の小・中・高校などで教育に功績のあった人百五十人、本県では他の三氏とともになされたものである。

学校史発行の御案内

学校史については、すでに昨年六月に「小史」を刊行していますが、この度いよいよ「本史」が出版される運びとなりました。内容は、編年体で明治期・大正期・昭和前期・昭和後期の四期に分け、沿革史的なものを軸としながら、細部を補うために注による資料を多く配し、さらに生き生きとした場面をも加えようと、各期の代表者に「思い出の記」を依頼して構成してあります。短時日の編集作業のため採り残した資料が多々あることと思いますが、主として教務日誌、雑誌「群馬」等を中心としています。学校八十年の骨組に読者御自身の知識・体験を肉付けして読んでいただきたいと思います。価格、販売方法については未定ですが、千数百頁、三月初旬発行の予定です。その節には是非御協力下さるようお願いいたします。

同窓会維持会費について

お願い

同窓会の運営につきましてはいつもご高配をいただきありがとうございます。会計報告にもありますように多くの会員の方から維持会費の納入をいただき、おかげさまでその運営も順調にしております。しかし総会、会報の発送費だけでも六十万円をこすのが現状でありまして、その内情は決して楽であるとはいえません。

さて、ご承知のことと存じますが総会の決定により、昭和47年度より維持会費（会員一人当り年額一口一、〇〇〇円）一口以上を納めていただくことになりました。なお常任理事会で常任理事については五口五、〇〇〇円、理事については三口三、〇〇〇円をお願いすることに申し合わせてあります。なにとぞ同窓各位におかれましては同窓会運営のため、ご賛同を賜わり、ご協力の程お願いいたします。

昭和53年度 高々同窓会経常会計報告 (昭和53年1月～12月)

収入の部			
費目	昭和54年度予算	実収入	備考
前年度からの繰越金	252,118	252,118	
入会金	410,000	417,000	全日406 通信11
維持会費	1,900,000	1,343,815	
利息	10,000	17,883	
合計	2,572,118	2,030,816	

支出の部			
費目	昭和53年予算	実支出	備考
会議費	100,000	118,550	総会
祝賀費	100,000	70,500	卒業証書筒
送別費	150,000	89,000	転退職員への送別
慶弔費	60,000	11,500	香典
通信印刷費	200,000	175,000	維持会費振込用紙
旅費	60,000	32,600	京浜同窓会出席
総会通信印刷費	700,000	598,800	全会員への総会通知等発送
同窓会報費	150,000	119,000	同窓会報印刷
事務費	700,000	636,595	人件費、用備品等
予備費	352,118	99,000	半切パネル写真
同窓会基金へ		0	
次年度への繰越		80,271	
合計	2,072,118	2,030,816	

昭和53年度 高々同窓会特別会計(同窓会基金) (昭和53年1月～12月)

収入の部		支出の部	
費目		なし	
前年度からの繰越	1,846,373	残高合計 1,873,959 (高崎信用金庫西支店 定期)	
利息	27,586		
合計	1,873,959		

昭和54年度 (昭和54年1月～12月)
高々同窓会経常会計予算案

収入の部		
費目	昭和54年予算	備考
前年度からの繰越金	80,271	
入会金	413,000	全日405 通信8
維持会費	1,300,000	
利息	10,000	
合計	1,803,271	

支出の部		
費目	昭和54年予算	備考 ○増△減
会議費	100,000	
祝賀費	60,000	40,000 △
送別費	100,000	50,000 △
慶弔費	30,000	30,000 △
通信印刷費	30,000	170,000 △
旅費	40,000	20,000 △
総会通信印刷費	630,000	70,000 △
同窓会報費	130,000	20,000 △
事務費	550,000	150,000 △
雑費	50,000	50,000 ○
予備費	83,271	268,847 △
合計	1,803,271	768,847 △

昭和54年1月28日 高々同窓会校内幹事会計

佐野卓立 松本昭栄 真砂芳夫

昭和53年度 庶務報告

53. 1.20 常任理事会 高崎 高々翠橋会館
 1.28 理事会及び総会 高崎 地域医療センター
 5.23 京浜同窓会総会及び新入会員歓迎会 東京 海運ビル
 6.1 80周年記念式典 高崎 高々体育館

進学状況 (現役・浪人の延人数)

種別合計	52年	53年	54年
A 国立一期	90	105	194
B 国立二期	76	94	
C 公立	14	25	38
D 私立	436	580	620
A+B+C+D	616	804	852
準大学・短大・各種	10	4	11
総計	626	808	863
卒業業者数	420	408	405
現役進学者数	167	192	209
合格者/進学希望者	39.8%	47.1%	51.7%

	52年	53年	54年		52年	53年	54年
北大	9	5	5	青学大	9	27	25
東北大	13	28	22	学習大	11	11	10
千葉大	7	17	14	慶応大	35	40	36
東大	14	11	7	芝浦工大	7	14	6
一橋大	5	4	4	上智大	16	30	12
東工大	1	4	3	中央大	41	55	45
筑波大	8	6	4	東海大	9	8	5
新潟大	15	15	8	東京電機	4	6	11
金沢大	4	4	3	東京理科	34	32	47
京都大	3	5	4	東京医大	1	3	2
群大	43	44	58	東洋大	7	4	10
埼玉大	6	14	13	日本大	25	24	39
東外大	1	1	3	法政大	26	21	33
山梨大	1	1	0	明治大	57	68	60
信州大	8	4	5	立教大	8	16	17
横国大	3	5	6	立命大	10	12	10
高経大	7	14	27	同志大	5	9	7
横市大	4	3	1	早稲田大	53	82	72

同窓会事務局より

お願い

一、維持会費について 日頃、同窓会活動の円滑な運営、発展のため維持会費のご協力ありがとうございます。

本年も同封の振替用紙で送金下さるようお願いいたします。

一、異動調査用ハガキについて 本年は同封いたしません、住所等異動がありましたら、ご本人はもとより友人の分もふくめて普通ハガキでお知らせ下さい。会員が一人数千人の現在、一年間の異動がはげしく前年届いたのに翌年未着のものが数百通に及

ぶ有様です。一回でも未着となりますと次回から連絡がとれません。

一、事務局への連絡は必要事項の記入はもとより、必ず卒業期(回数)又は卒業年を忘れずに記入して下さい。

氏名の未記入、同姓同名のケースもあります。そうなりますと、事務局員がひとつひとつ、調べねばなりませんので、とても大変な仕事になります。よろしくお願いいたします。